



地域と学校が つながって 子供の幸せな未来をつくる !!

文部科学省は、教育振興基本計画の中で、「教育政策の持続的改善のための評価・指標の在り方」を次のように示しています。「教育政策は、他の政策分野と比較して、成果が判明するまでに長い年月を要するものが多いこと、成果に対して家庭環境など他の要因が強く影響している場合が多く、政策と成果との因果関係の証明が難しいものが多いことなどの特性がある。数値化できるデータ・調査結果のみならず、数値化が難しい側面（児童生徒の課題、保護者・地域の意向、過去の実績等）についても可能な限り情報を収集・分析し、総合的に判断して取り組むことが求められる。」

本号では、岩国市教育委員会が、令和5年度末に行った「地域連携教育に関する調査・アンケート」の集計結果の一部を紹介します。この資料を見て、多様な方と対話することで、これからの岩国市の教育政策や教育実践の充実につながっていかばと思います。

令和5年度 岩国市地域連携教育に関する調査・アンケートより

A【調査対象】市内全ての小学6年生、中学3年生（回答者数1846人）

【調査対象】市内全ての小学6年生・中学3年生の保護者（回答者数1432人）

【調査対象】各中学校区の地域住民（回答者数223人）



あてはまる どちらかというとあてはまる
どちらかというとあてはまらない あてはまらない

<児童生徒>

【Q7】

地域の人と一緒にする活動は楽しいですか。



<保護者>

【Q3】

地域の人学習に協力することで、学校の教育活動がより充実すると思いますか。



<地域住民>

【Q5】

地域の人学習に協力することで、学校の教育活動がより充実すると思いますか。



B【調査対象】市内全ての小中学校の教職員（小31 中14校）

岩国中校区の4校で、9年間を見通した活動ができつつある。また、小小のつながりが生まれ、かつ持続可能な方法に向けて見直し、改善ができています。

「人は人のシャワーを浴びて人になる」という言葉のように、生徒が様々な大人と関わることが、子供の成長に非常に役立っている。

地域連携教育の推進によって皆さんの意識が高まり、学校の現状について、地域の方により知っていただいていると感じている。それによって行事や日々の交通指導など今まで以上に協力をいただいている。

全教職員と学校運営協議会（学運協）委員、PTA執行部で、本校の課題である学力向上について熟議を行った。地域や保護者が、学習・生活ボランティアとして学校に関わることから始めようという意識が高まった。

子供が地域の方と一緒に活動することを喜ぶとともに、郷土愛が深まっているように感じる。感謝の気持ちから、何か自分にできることはないかと考えるようになった。

地域の方は、まだまだ学校は敷居が高いと言われている。サロンのようなものが学校にあれば、そこを拠点に活動できるのだからと言われるが……。

地域の方に依頼する際、地域コーディネーターさんや学運協委員の方々が連絡係として大変苦労されている。活動に参加して下さる方が固定化・高齢化している。新しい人材が不足していることが一番の課題です。

生徒数が多いため、授業の中で地域の方と生徒が交流したり、意見を交わしたりする活動ができていない。工夫したい。

地域行事の参加への呼びかけなど公民館などを運営主体にすることで、地域の力（教育力）を高めた。今は、呼びかけ・参加者のとりまとめを学校が……。

地域連携教育の成果や良くなった点、課題がたくさんありました。人とのかかわりが再開し、各地域で「かかわりづくり」「人づくり」が進んでいるようです。無理なく、無駄なく、楽しい活動を展開し、ゆるやかにつながっていく心地よさ・安堵感を味わいながら、10年・20年先の子供たちの生きる力を育てていきたいものです。